

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	つつじが崎学園					公表日 令和7年11月20日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	11	0	子どもが十分に遊べたり活動できるスペースが確保されているから ・ unnecessary物はなるべく置かないようにしている ・ 改善点は特になし 自由遊びの際机スペースマットでの活動スペースが安全に確保することができる	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	0	3人でクラスを運営できるように環境を整えるなどしているからちょうどいい配置数だと感じる。 配置基準を満たしていても、子どもの状態によって柔軟に補助の職員を配置している点。その時の状況によって臨機応変に、他クラスの先生や事務所にいる先生方が補助に入ってくれる為、とても良い。 フリーの職員がいる為、すぐに対応してもらえる。	今年度より中核機能担当の職員が配置され、クラスや子どもの状況に応じて柔軟に対応出来るようになりました。今後も支援に当たる保育者がゆとりが持って、子ども達に丁寧な支援を行えるように配慮していきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	11	0	視覚的支援が充実している点が良いと思う クラスの絵など、目で見てわかるような環境である。 ・ 視覚的に強い子が多いため、声の大きさ表やスケジュール表を用いている。 廊下側がドアもしくは窓になっている為、廊下にいる職員からも目が届き、廊下にいる子供にも目が配ることができる。	子ども達にとって過ごし易い環境への配慮は、その年々によって違います。適切な環境を整えることが出来るように、保育者のスキルアップにも努めています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	1	毎日丁寧に掃除をしている。 最近は急いでいたり、忙しかったりした時こそ部屋内を端的に、綺麗に保てるように意識をするようになった。 掃除が行き届いており、室内にすいどがある事で、活動中感覚過敏なある児もすぐに手を洗うことが出来る環境になっている。 蜘蛛の巣、押し入れ内やサッシのほこりなど、掃除が行き届いていない場所がある。	アレルギー児も増えているので、清潔な環境を整えることを1人ひとりが意識し、細かい所も定期的に手を入れることが出来るように改善していきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	11	0	なっているが、使える部屋が限られる。 痲痺や気持ち不安定になった際、事務所やホール、デッキ等本児の要望に応じて対応することが出来る場所が確保されている。 各部屋パーテーションが完備されている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10	1	体制は整っているが、必要性を感じている職員は少ない。 毎日、いる先生で振り返りを行い、話した内容を後日改めて話すようにしている。 バス番等で担任全員が揃って振り返りを行うことが難しいことが多い。	今年度は日々の支援の計画や振り返りについて体制の改善を大幅に行った。勤務時間内で効率よく話し合いを持てるように1人ひとりが意識を高めていくことと、会議の進め方についても職員の力を高めていきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	0	来年度の予定や業務の改善で意見を反映させている。 保育参観後等に感想用紙を提出していただいているので、次回の活動の要望や子どもたちの様子・成長について知ることが出来る。 保護者からの意見等があった場合すぐに自発的に相談して対応している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	0	都度園長と児発管で話し合って改善をしている。 毎日の振り返りの場所がある。 会議や個々に相談し業務の改善に務めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10	1	自分の保育している様子を撮影してもらい、客観的な意見が貰える機会がある。 現場職員にはよく分からない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11	0	月に数回施設内で行われている。1年に1度は外部の研修を受けることが出来る。 様々な研修があり都度勉強させてもらっている。	

適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	11	0	日々担任や児発管の先生方に助言をもらいながら作成している。 懇談や会議後速やかに分かりやすく作成されている。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10	1	懇談に担任が同席する事で直接保護者から話を聞くことが出来ている。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11	0	児発管と都度話が出来る環境にある。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	1	認識のずれ違いや、支援内容の把握不足を感じる。	保育者が個別支援計画を意識して、支援に当たることが出来るように、体制作りの改善を検討していきます。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11	0			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10	1	分かりやすく記されている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11	0	担任間で話し合いを行っている。 行えているがずれ違いはある。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	1	子供に無理なく楽しんで活動出来るよう工夫している。 活動内容は同じでも、展開の仕方や提示する教材を子どもの状況を見ながら変更していったほしい。		
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	11	0	子供のその日の様子を把握しながら対応している。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	1	行うように努力はしているが、役割分担などが大まかになってしまうことがある。 前日、当日と打ち合わせを行っているが、突発的な行動に対応、連携が難しくなることがある。 行っているが、曖昧な部分を深掘りできていないと感じる。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11	0	当日できなかった場合は翌日等に繰り越して情報交換をするようにしている。 都度反省を行っている。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	3	職員間で話をするところがあるが、記録までは出来ないこともある。	連絡帳への記録が支援記録となっていることを保育者全員が認識し、目標に沿った支援経過を分かりやすく記載出来るようしていきます。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11	0			
	関係機関や	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	11	0		
		25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	11	0		
		26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11	0		
		27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11	0	懇談等を行い情報共有している。	
		28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	11	0		

保護者との連携	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	11	0		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	9	2		自立支援協議会は参加した際に回覧にて内容を周知しているが、どのような活動を行っているのか研修等で伝える機会を設けていきます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	11	0	研修を通して行っている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	11	0	宮前保育園との交流保育を通して関わりを持つことができている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11	0		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	11	0		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	11	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11	0	児発管に相談しながら助言を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	11	0	グループ保育の際家庭支援、兄弟支援を行うことが出来た。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11	0	SNS等で迅速な対応が出来ている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11	0		
非常時等の	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	11	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10	1		
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	0		
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11	0	研修や警察、消防と連携を取りながら行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11	0		
非常時等の	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	0	給食、おやつ配膳前にクラスで周知を行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	11	0		

対応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	11	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11	0	起きたその日に共有し、再発防止について話し合いを行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10	1	現在身体拘束を行うことがない為。	保育者全員が身体拘束への理解を高め、何が該当するのか、1人ひとりが考える力を持ち、該当した際にはすぐに動けるように組織作りをしていきます。